

●とびくす●

『U I A 2011東京大会 第24回世界建築会議』

徳島支部 島田 英明

青年部主催の2泊3日U I A東京大会ツアーに参加させて頂きました。

U I A大会は建築の世界最大級のイベントで、世界中から建築家や技術者、研究者、学生などが集まります。

大会では、講演やセミナー、プレゼンテーション、ワークショップ、展覧会など、大会テーマに基づく多彩なプログラムが開かれます。

U I A大会は、1948年にスイス・ローザンヌで初めて開催されて以来、ほぼ3年に一度、世界の各都市で開催されています。日本での開催は、24回目となる今回が初めてです。

(大会HPより一部抜粋)

東京大会の大会テーマは「DESIGN2050」

サブテーマは「環境・文化・生命」

3月11日の東日本大震災は極めて大きな問題を日本だけでなく世界に投げかけることになりました。そして世界で同時に起こっている世界規模の諸問題を踏まえて、建築や都市はどうあるべきか?を考える大会でもありました。



▲会場の東京国際フォーラム

日本・世界の著名な建築家の講演やお話をたくさん直に聴くことができたのは貴重な経験でした。

建築家ではありませんが、個人的にはブータン王国首相のジグメ・ティンレー氏のお話をもっとも心に響きました。

ブータンはGNP（国民総生産）でなくGNH（国民総幸福量）を提唱されている国で有名です。

GNHは4つの柱を基に実践されています。

1. 持続可能で公正な社会経済開発
2. 自然環境の保全
3. 伝統文化の保護と振興
4. 優れた統治力

現在の経済優先の社会に対して疑問を投げかけ、建築はどのように存在するべきかを問いかけられました。



▲ジグメ・ティンレー氏

それと、初日の夜。J I Aさん主催の「フクシマトクシマの会」懇親会があり参加させて頂きました。

福島で設計をされている方の実際のリアルなお話を伺い胸がくるしくなりました。

ですが、このような機会を頂き感謝したいと思います。

建築士会のメンバーとも交流させていただいて感謝です。ありがとうございました。



地域防災研究会の設立にあたって ～その目指すべき方向～

(社)徳島県建築士会 地域防災研究会 代表幹事 中村 正則

副代表幹事：岸田 徳明・河村 勝 会計幹事(事務局担当)：蓑田 勉
顧問：中野 晋(徳島大学大学院教授)・佐藤 幸好(建築士会会長)

さる10月15日、地域防災研究会が大勢参加のなか発足いたしました。新聞記事を見た士会会員以外の参加もあり、これまでにない研究会の船出となりました。記念講演をしていただいた徳島大学大学院の中野晋教授からは、徳島大学で進めてきた防災リーダー育成の立場から、会員に活躍のエールをいただきました。また、研究会の顧問もお引き受けいただき、たいへん心強い体制となりました。会では士会会員以外でも、会の目的に賛同する方は特別会員として受け入れるようにしています。

研究会の目指すべき方向として3つの柱を示しました。◆第一に、建築技術者として行政や地域住民の要請に応えていくこと。①大災害時の初期段階に二次災害防止を図る応急危険度判定の体制作り、実践的な訓練の実施。②大震災後の復興に向けた被災地でのあらゆる住宅相談に対応できる生きた知識と判断と実践力を身につける。③平常時から備えておくべき木造耐震化(耐震診断、耐震改修)の積極的な啓発・推進。◆第二に、建築士会として、建築の耐震知識だけでなく防災に関する総合的な知識(自助、共助、公助、科学、情報、救命、予防、復興など)を身につけた建築士を養成し、地域防災に関する建築専門家として認定し、積極的に行政や各地域に推薦・派遣し、同時に市町村や地域住民との協働事業を積極的に取り組む。◆第三には、地域の建築士として、会員1250名の身近な地域で、地に着いた活動により防災知識などを活かし、地域の建築士としての役割を果たす。

当面の活動として、中野先生にアドバイスを頂きながら、地域防災に関する総合的カリキュラムに基づき、様々な分野の講師による研修を重ね、防災建築士に向けて研鑽を続け、同時に県住宅課から建築士会への委託事業である『木造耐震化 住まい安全・安心リフォーム支援事業』に関して本部・支部の協力のもと積極的に啓発・推進に取り組む。

中野先生からは徳島大学環境防災研究センターとの共催というご提案もいただき、それに伴い毎月の例会を徳島大学常三島キャンパスの工業会館で行えるようになりました。会員への連絡はメールを基本に、資料は事前にPDFをメール送付し、各自印刷、持参ということも確認しました。地域防災に関する様々な講演会・研修・訓練などの情報も随時提供していきたいと思えます。魅力ある研究会の継続はなかなか難しいですが、硬すぎず、魅力ある、楽しい、会運営を目指したいと考えています。東日本大震災の視察報告をしていただいた青年部7名のような若手や女性、そして、地域活動の機会が増えるシニアの方々の参加もお待ちしています。

入会はいつでも受付します。参加希望の方は、氏名、電話番号、メールアドレスを以下にお送り下さい。

皆様のご参加を 心より お待ちしています。

■地域防災研究会 事務局担当 蓑田 勉
メールアドレス minocchi_b@yahoo.co.jp



公益法人制度改革について その4

公益法人改革特別委員会

前号、(その3)では、建築士会で毎年行ってきている事業の中から「とくしまユニバーサルデザインによるまちづくり賞調査事業」について、公益目的事業であることを申請文として書いてみました。次の三つの枠組みで構成されています。

「事業の概要」

「事業の公益性」

(1) 認定法別表の何号に該当するか?→A

(2) 公益性のチェックポイントの何号で説明できるか?→B

AとBは何か?という人は「まちかど7月号」で(その2)を読んでください。

Q7:事業の公益性の要点は何か?

申請文を書き続けてみて、要点は、まちかど7月号でも書きましたが、[B:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するかどうか]にあると感じています。

いままで建築士会で講演会やセミナーを企画した時には、わかりやすい内容で行い、しかも入場者数が多いほうが盛り上がるので、多くの人を集めたいとして、開催日時や広報体制・方法などを考えてきたと思いますが、これを、「事業の公益性のチェックポイントの何号で説明できるか?」、試してみます。

事業区分ごとのチェックポイントは、次の18項目あり、申請書では、事業内容をチェックポイントに従って説明することを求められています。

検査検定、資格付与、講座・セミナー・育成、体験活動等、相談・助言、調査・資料収集、技術開発・研究開発、キャンペーン・〇〇月間、展示会・〇〇ショー、博物館等の展示、施設の貸与、資金貸付・債務保証等、助成(応募型)、表彰・コンクール、競技会、自主公演、主催講演、上記の事業区分に該当しない事業[講座・セミナー・育成]は次の①~④に細分化。

①当該講座、セミナー、育成(以下「講座等」)が不特定多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。

②当該講座等を受講する機会が、一般に開かれているか。

(注)ただし、高度な専門的知識・技能等を育成するような講座等の場合、質を確保するため、レベル・性格等に応じた合理的な参加の要件を定めることは可。

③当該講座等及び専門的知識・技能等の確認行為(受講者が一定のレベルに達したかについて必要に応じて行う

行為)に当たって、専門家が適切に関与しているか。

(注)専門的知識の普及を行うためのセミナー、シンポジウムの場合には、確認行為については問わない。

④講師等に対して過大な報酬が支払われることになっていないか。

皆さんもお気づきの通り、いままで建築士会で企画した講演会やセミナーを、この①~④のチェックポイントごとに説明することは難しいことはありません。「その3」で示したUD賞調査事業も説明できました。つまり、建築士会の多くの事業は、後追いで作られた公益認定法を使って、公益性を説明できるのです。業界的にいうと、「既存不適格」ではないのです。

いままでと同じように、これからも、①~④のことを意識しながら、事業企画を続けていくことかと思いますが、意識し直すところもあります。それは、[講座・セミナー・育成]や他のチェックポイントでも、ほぼ共通して要請されていることで、②についてです。特に、意識する部分だと感じています。いわゆる「広報・案内」です。一般客が来ない、あるいは来ても一人二人という企画は、?マークが付く、ということ。

Q8:公益社団法人に移行すると、新たに、ボランティア活動をしなければならなくなるのでは?

この答えは、Q6とQ7で説明してきました。

この心配が根強く残っている雰囲気がありますが、違っています。Q8で心配している「ボランティア」と、まちかど7月号で会員の皆さんへ呼びかけた「建築士としての公益的活動支援:助成団体(グループ)募集」とは趣旨が全く違っています。このあたりで、誤解があれば、解いてほしいと思います。

♠ ♥ ◆ ♣

難しい話が続きましたので、お願いをひとつ。

ご存知、三ツ合橋です。南田宮・南前川・出来島の上に架かる、[三叉路になっている日本でひとつしかない橋]らしいのです。県内、県外へ出掛けた折には、こ



んな形の橋がないか、情報収集をお願いします。

なお、合成写真なので、かなり曲がっていますが、ほぼT字です。

【公益法人 information→検索→Q & A】 (つづく)

若手建築志交流会 in 鳥取

徳島支部 高見 隼也

徳島県建築士会の皆さんこんにちは。今回私は、9月10・11日に鳥取県で行われた若手建築志交流会に参加させて頂きました。徳島からは私を含め5名の参加でした♪

一日目はメインイベントの三徳山三佛寺「投入堂」です。ここは、写真家の土門拳をして「日本第一の建築は？」と問われたら、三仏寺投入堂をあげるに躊躇しないであろう。」と言わしめた建築物のある場所です。三徳山は修行の場所ですので、参拝登山をするには輪袈裟（わけさ）をして登ることが義務づけられています。服装に関しては、スカートなどは厳禁で、靴も山道を傷める恐れのあるものは基本的には草鞋（わらじ）に履き替えることになっています。投入堂へは、片道約1時間の険しい道りを登る必要があります。山道は木の根や岩肌が剥き出しのけもの道で、油断すると崖から転落してしまう人も多いそうです。毎年何人もけが人が出るそうです。そのけもの道を登り終えると…溢れんばかりの絶景が待っており、その先には投入堂！ここは、本当に写真で見ると、実際に苦勞して見るものとは全く感動が違います！そして、行きよりも帰り道が大変で、帰り道では踏み外して足を怪我した人も多いのではないかと思います。今回の登山者はみんな無事に帰って来ました！

二日目は人形峠展示館にて原子力エネルギーの勉強をさせてもらいました。ここは原子力エネルギー利用への理解を深めるための施設です。人形峠は日本で最初にウラン鉱床が発見され、原子力発電に使われるウラン燃料の研究開発が開始されたことから「原子力の原点」または「ウランのふるさと」と呼ばれている場所です。最近何かと話題の原子力、鳥取にその原点となる場所があるということを今回初めて知りました。施設では簡単に原子力について理解を深めるために講義が行われ、α線測定器で身近なものを測定しました。ワカメやレンガからも微量のα線が出ていました（驚）。その後、ウランの炭坑を見学させてもらいました。炭坑の中にはウランがあるのですが通常は確認できません。赤外線を当てるとウランが青く光り始め、肉眼で確認出来るようになります。ちょっと感動しました。この場所の不思議…展示館で携帯のGPSを起動させるとなぜか、現在地が宇和島を示しました（笑）。

帰り道に、奈義町現代美術館に寄りました。この美術館は1994年に磯崎新により建築された第三世代の美術館と呼ばれています。他の美術館の違いは、従来の美術品と展示空間の関係が逆転している点です。つまり、アーティストの作品そのものとして構想された空間が最初にあり、建物はそれを覆うシェルターにすぎないという点です。荒川修作、岡崎和郎、宮脇愛子という三人のアーティストによる三つの常設の展示空間と、一つの企画展示室と、図書館から成り立っています。旅の最後にこんな良いものが見ることができ、すごくよかったです。



▲投入堂



▲奈義町現代美術館

●支部だより●

地域防災研究会発足式に参加出席して

板野支部 賀治 隆志

平成23年10月15日(土)14:00~16:30徳島県総合福祉センター4階において地域防災研究会の発足会があり、55名の出席のうち板野支部より多田勲さんと私が参加してきました。



▲佐藤会長のあいさつ

初めに青年部の方より東日本大震災の視察報告を受けましたが、いまだガレキの処理場所も決まらず復興の兆しがまだまだ見えてきてないようでした。青年部の参加された方々には、ご苦労さんでした。



▲青年部の視察報告

次に、徳島県住宅課の鎌倉課長補佐より「住まいの安全・安心なりフォーム支援事業」の説明があり、徳島県で、耐震診断済の住宅が、現在約9,700戸あり、耐震改修を行っている住宅がその約1割程度だそうです。まだまだ、進まない耐震改修工事を徳島県建築士会も耐震改修の住宅相談をお手伝いして全県で耐震改修工事が増え少しでも安全な住宅が増えるようにみなさんでガンバリましょう。

その後、徳島大学大学院教授中野晋氏による記念講演「災害の世紀に向けて～東日本大震災の教訓～」があ

り、徳島県でも大地震が発生すれば、海岸線に津波または、軟弱地盤地には液状化現象による災害を受ける可能性が高い地域が多いと思われます。そこで、この研究会を中心に災害時の行動を考えなければならないと思いました。



▲中野晋氏による記念講演

最後に地域防災研究会の方向・今後の活動方針と役員を決定して発足会は終了しました。



▲会場の様子

史上最強の移動遊園地

小松島・勝浦支部 日野 かおり

8月6日土曜日の朝、出発しました。

愛車のマーチは、前日にオイル交換と点検を完了し、準備万端です。旅に行くのです！

春から計画をたてて、直前の台風の進行方向にドキドキしながら、まずは徳島道～松山方面へ走り、伊方発電所を右手に眺めた後に港へ到着。

運転手の旦那様には申し訳ないけど、ビール片手にじゃこ天を頂きながら、フェリーへ。

って揺れてる？遠く南のほうの海にいてる台風の影響がココまで関係するの？船酔いなのかあ、酒酔いなのかあわからない状態で根性の70分。大分・佐賀関に着。道の駅で休憩ながら、関アジ丼。(美味しい)ココからさらに197号バイパスと大分自動車道へ。

1日目の目的地、湯布院に到着。観光ガイドブックを見ても初めてのトコロって意味わからなくてどこに行けばいいのかわからない。どーしよーっ。っで、選んだのが『人力車』。金鱗湖から駅前まで裏道を通って、グルッと1周。ブラブラしてるだけじゃわからない湯布院を楽しく知ることが出来ました(^ ^)露天風呂付の離れの宿では、牛すきしゃぶを頂きました。(コレも美味かった)

2日目の朝は、福岡へ。カーナビがあるのだけれど道に迷いながら…太宰府天満宮へ。



そして、いよいよ！です。今回の旅のメインイベントへ。そうです！4年に1度の大会が行われる会場へ。んんん!?何かご不満?ご不明な点がありますか?4年に1度といっても、オリンピックじゃないですよ。ロンドンオリンピックが2012年開催である事は承知しております。



今年、2011年に開催されたイベントは…

『『史上最強の遊園地 DREAMS COME TRUE WONDERLAND』』(ドリカムの3時間を超えるめちゃ素敵なライブツアー)なのです！

会場となるのは福岡ドーム。

(大阪での開催日もあったのですが、屋外施設となっていたので今回、私は少々遠くても太陽光を気にするでなく、雨を気にするでなくゆっくりと観覧・観賞できる屋内施設を選んでの参加となったわけです。そうしたら、大阪公演は台風12号の影響で中止・延期。これには本当に驚きでした。)

会場ではアリーナ席で、前から数えられる程ステージに近い席。よしだみが飛び出した瞬間から、アンコールまでず——っ、数え切れない感動の笑顔と、感動の涙と、幸せいっぱい3時間でした。

福岡・博多の夜は、この旅最後の晚餐。

白濁の鶏がらだしを湯呑みに注ぎ、柚子こしょうと塩味だけで頂いてからの水炊き。(やっぱりコレも美味しかった)

3日目は帰路。福岡から下関へ渡り、瀬戸大橋経由の8時間ドライブ。

やっぱりお土産は明太子だろうと思い、急遽クーラーボックスと氷を購入。ココまで来たのだから！と言い出したらもう止まりません。帰り道は、名産・名物のお買い物ツアー?でした。

こうして、2泊3日の『4年に1度の大会 史上最強の移動遊園地 DREAMS COME TRUE WONDERLAND 観賞の旅』は、幕を降ろしたのでした。

第6回とくしま福祉機器展を終えて

徳島支部 中山 尚子

10月22日(土)、23日(日)の2日間、徳島市のふれあい健康館にて『第6回とくしま福祉機器展』を開催しました。

私にとっては、この福祉機器展を主催する実行委員会の副会長を務めるようになってから3回目の開催です。

ここ2年、日曜の集客に悩みました。お客様の一人ひとりの滞在時間は長く、相談の内容も濃く、リピーターも多い。質が変わったことを参加しているスタッフやメーカーは実感しているにもかかわらず、人数が伸びないという状況。本当に必要としている方の相談の場として定着しつつあるというのはいずれのことです。しかし、私たちには他にも課題があります。障害のある人もない人も誰もがいきいき生活できる共生社会の実現に向けて、一般の方にも参加していただき、福祉機器の展示を通じて様々な気づきを提供するということです。

そこで、今年は「福祉」「福祉機器展」という言葉からもたらされる「暗い」「自分には関係ない」「メーカーによるモノの展示」というマイナスイメージを少しでも改善すべく、チラシに掲載する言葉やイメージづくりをスタッフ全員で話し合いました。また、一般的には福祉と結びつかないプチイベント（ツボ体験、パーソナルカラー診断、アロマトリートメントなど）を無料で行うことで集客を図りました。



その結果、他にもたくさんのイベントが重なっていたにもかかわらず、昨年より100名ちょっと集客数が増加し、500名を超えることができました。またアンケートではお客様から温かい励ましの言葉や感謝の言葉もいただくことができ、充実した内容で終えることができました。

私自身、ここ数回は機器展が終了しても達成感を感じられず、なぜ?なぜ?と自問自答の繰り返しでした。でも、今回の機器展は、本当に楽しかった!楽しかったし、充実感や達成感を得られることができました。それは、

ずっと一緒に運営に携わってきてくれたスタッフや、その思いや人柄に触れて、サポートしてくれた当日ボランティアのみなさんのおかげだと思っています。

ある学生ボランティアさんは、「また来年来ます!」と笑顔で帰っていきました。今年初めてパーソナルカラー診断をイベントコーナーで行ったボランティアさんは、「障害のある子どもさんも顔に色布をあててみているとキャッキョと喜んでくれて、こんな体験は初めてで本当にうれしかった」と話してくれました。他にも新しい発見や驚きがたくさんあったようです。



また昨年に引き続き、福祉機器展の魅力伝えるために、インターネットを利用してUstream番組中継も行いました。市民活力開発センターのタモリこと山本さんと大学生たちが取材に協力してくれ、番組を盛り上げてくれました。



今回の開催には建築士会の事業委員会からも助成金をいただきました。スタッフの中には建築士も数名おり、住宅改修ブースなどで活躍しています。しかし、建築士会という団体との連携についてはまだまだです。今後、どのような連携を図り、建築士としての活躍の場を広げていただくか、一緒に考えていただければ幸いです。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

●士会だよりー事業●

第5回 お菓子の家をつくろう！with LED

童話「ヘンゼルとグレーテル」にでてくる、『お菓子の家』をご存知ですか？

固焼きパンの屋根、厚焼きスポンジやクッキーの壁、キャンディーの窓にチョコレートのドア…。そして、もうすぐクリスマス！お菓子の家に、灯りをともして飾ってみませんか？『LED』を使って、光るお家を作りましょう！ぜひ、お友達と一緒にご参加下さい。

開催日：2011年12月3日(土)

時 間：13：30～16：00

会 場：とくしま生協 コープ住吉店 1階会議室

定 員：20名 小学3年生以上（幼・小学2年迄の方は保護者同伴）

参加費：500円（当日集めます。おつりのいらぬようにお願い致します）

問合せ先：徳島県建築士会事務局 088-653-7570

主催＝(社)徳島県建築士会、主管＝(社)徳島県建築士会「お菓子の家をつくろう」。

共催＝(社)徳島県建築士会女性部会

※筆記用具を持参して下さい。

※お持帰り用の箱（A4サイズよりも一回り大きいもの）をご用意下さい。

●士会だよりー事業●

あしたのひょうたん島プロジェクト2011

『ひょうたん島ぐるっと川の駅』のご案内

今年も「川の駅」作ってみました!!新町川と助任川に囲まれた中州、愛称として定着した「ひょうたん島」もっと多くの人にその魅力を伝えたい。その思いが、「まちづくり」に参加するきっかけでした。ひょうたん島からつながる「まち」の未来を体験して下さい。川からまちへ出かけよう!!

開催日：2011年11月27日(日) ※1日限定・雨天決行

時 間：10：00～16：00

☆川の駅（乗船無料）

1. 新町川水際公園ボートハウス
2. とくしまご当地B級グルメフェスティバル会場
3. 助任川河岸緑地（寂聴棧橋）
4. 徳住橋
5. 万代中央ふ頭倉庫街

※ただし、乗船保険料として1日100円必要

☆同日開催

とくしまご当地B級グルメフェスティバル

建築士会本部行事案内 平成23年

11月		12月	
2日	正副会長＋支部長＋事務局長会議 (士会会議室)	1日	1日会 (士会会議室)
4日	中四国ブロック職員会議 (愛媛県)	2日	まもりす保険説明会 (貞光ゆうゆう館)
9日	建築相談 (士会会議室)	8日	財務委員会 (士会会議室)
10日	「建築士業務の責任と処分」講習会 ()	14日	建築相談 ()
12日	協働の森づくり事業 (佐那河内村)	17日	常任理事・理事会 (建設センター6・7F)
16日	建築相談 (士会会議室)	21日	建築相談 (士会会議室)
22日	まもりす保険説明会 (阿南市)		
25日	中四国ブロック会長会議 (愛媛県)		
27日	徳島市防災訓練 (城東小学校)		
29日	建築士定期講習 (建設センター7F)		

まち歩きツアー午前／午後開催

とくしま観光ガイドボランティア会によるガイド付きツアーを開催

(午前の部11：00出発 午後の部14：00出発)

主 催：(社)徳島県建築士会

問合せ先：士会事務局 088-653-7570

ひょうたん島ぐるっと blog

<http://hyoutanjima.blog86.fc2.com/>

●士会だよりー事業●

「とくしま協働の森づくり事業」関連イベント

徳島県建築士会が「とくしま協働の森づくり事業」のパートナーシップ協定を締結している佐那河内村内の山林で、間伐作業の見学やPR看板の設置作業、間伐材を利用した楽しい体験型ワークショップを企画しています。小さい子供さんでも楽しく参加できますのでぜひご家族でご参加下さい。※参加無料です

日 時：平成23年11月12日(土) 13：30～17：00

場 所：佐那河内村役場 駐車場 13：00集合

申込締切り：平成23年11月10日

申込先：本部事務局 TEL088-653-7570

●士会だよりーOA研究会●

B I Mによる設計の基礎

2010年3月、国土交通省が官庁営繕事業においてB I Mを用いた設計を試行すると発表し、同年6月には、B I Mの採用を条件とした公募を発表している。また「建物環境配慮制度」のような、環境を配慮した取り組みを開始する自治体も数多く現れてきている中、B I Mという新しい設計手法についての、今さら聞きづらい基礎知識と身近な事例をご紹介します。

日 時：2011年11月25日(金) 18時～20時

会 場：建築士会 会議室 参加費：無料 先着30名

1. B I M (Building Information Modeling) の基礎知識
2. アトリエ事務所におけるB I Mの活用事例
3. B I M最新情報

編集後記

- ・あ、東北視察の記事、来月に回しました！すみません！（源太郎）
- ・久しぶりに編集会議に來られました。みんな元気でよかったです。
(ノーリツ号)
- ・來たら無事、編集会議終わっていました。（西酎）